

子ども と共に 建築を 考える

Thinking
Architecture
with Children



今治市伊東豊雄建築ミュージアム展覧会

2022年10月9日(日)－2023年9月15日(金)

子どもと共に 建築を考える

我が国では建築教育は大学や高専の建築学科に入ってから行われるのが一般的です。

しかし私は小学生の時から建築に親しみ、建築について考えて欲しいと久しく考えてきました。何故なら建築について考えることは家族について考えることであり、社会について考えることであり、環境について考えることだからです。即ち学校では教えてくれないけれども、社会のなかで、これからどう暮らしていくかについて考えなくてはならない基本的なことなのです。

そこで私は2011年に東京の「伊東建築塾」をスタートした際、その活動の一環として「子ども建築塾」を始めました。塾は小学校の4～6年生の児童20名（2021年より40名）を対象に年間20回の講座を設け、「いえって何だろう」「まちって何だろう」というテーマの下で課題に挑戦してもらおうというものです。11年間が経過し、その間子ども建築塾は順調に発展し、初期の塾生だった子どもはいまや大学の建築学科の学生になり、TA（ティーチングアシスタント）として子どもたちの指導にあたってくれるようになっています。

今回の展示ではこれまでの子ども建築塾の活動を振り返り、人々に広くアピールするとともに、皆様のご意見をいただいて今後の活動の指針にしたいと考えております。

In Japan, architectural education is usually implemented only after one enters university or the architectural department of technical high schools. However, I have always wanted children to become familiar with architecture and to think about architecture from primary school age. The reason for this is because to think about architecture is to think about family, to think about

society, and to think about the environment. In other words, these are not taught at school, but they are fundamental things that must be considered when we think about how we will live in our society in the future. Therefore, I initiated "Architecture School for Children" as one of the activities held at "Ito Juku" when I established the school in Tokyo in 2011. The school runs a course of 20 lessons per year for 20 children (40 students since 2021) aged between 9 to 12 years old, where they tackle assignments under the themes "What is a house?" and "What is a town?" 11 years have passed since then, and the Architecture School for Children has developed steadily — some children who joined the school in the early years have become university students majoring in architecture, helping us to teach as teaching assistants now. This exhibition is to reflect on the past activities of the Architecture School for Children to date, to promote it to a wider public while receiving feedback that will guide our future activities.

Thinking Architecture with Children



©FUJITSUKA Mitsumasa

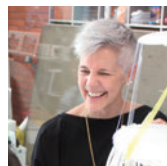
伊東豊雄（建築家）

1941年生まれ。1965年東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」「みんなの森 ぎふメディアコスモス」「台中国家歌劇院」（台湾）など。日本建築学会賞、ヴェネツィア・ビエンナーレ金獅子賞、ブリツカー建築賞など受賞多数。2011年に私塾「伊東建築塾」を設立。これからのまちや建築を考える建築教育の場として様々な活動を行っている。また、自身のミュージアムが建つ愛媛県今治市大三島においては、塾生有志や地域の人々とともに継続的なまちづくりの活動に取り組んでいる。



太田浩史（建築家）

1968年東京生まれ。1993年東京大学大学院建築学専攻修士課程修了。ヌーブ代表。東京ピクニッククラブ共同主宰。博士（工学）。主な作品に「PopulouSCAPE」、久が原のゲストハウス、「矢吹町第一区自治会館」など。



アストリッド・クライン（建築家）

クライン ダイサム アーキテクト（KDa）代表。共にRCAを修了したマーク・ダイサムと1991年に設立。主な作品に「代官山T-SITE／蔦屋書店」「GINZA PLACE」「星野リゾート リゾナーレ那須 POKO POKO」「toggle hotel suidobashi」など。

今治市伊東豊雄建築ミュージアム

「子どもと共に建築を考える」

2022年10月9日（日）－2023年9月15日（金）

開館時間 | 9:00～17:00 休館日 | 月曜日（祝日の場合は原則翌日振替）、年末

観覧料 | 一般…840円、学生…420円

※団体（20名以上）、65歳以上は2割引、

高校生以下または18歳未満無料、障害者とその介助者1名無料

主催 | 今治市

協力 | 太田浩史、アストリッド・クライン、柴田淑子、式地香織、兼清悠祐太、佐藤楓夏、子ども建築塾塾生OBOG、TA（ティーチングアシスタント）の皆様、こどもケンテック新聞社、GAKU（ログズ株式会社）、今治北高等学校大三島分校
ディレクター | 伊東豊雄

制作 | NPOこれからの建築を考える 伊東建築塾

映像・写真 | 田中英行、山根香 写真 | 高橋マナミ、中村絵、吉野かおこ

グラフィックデザイン | 丸山智也 英訳 | ジョイス・ラム

今治市伊東豊雄建築ミュージアム

〒794-1308 愛媛県今治市大三島町浦戸2418

Tel: 0897-74-7220 Fax: 0897-74-7225

Mail: info@tima-imabari.jp Web: www.tima-imabari.jp



車：瀬戸内しまなみ海道「大三島IC」から約25分

中国【広島市・福山市】側から

JR／バス：広島バスセンターまたは福山駅前→しまなみライナーにて「大三島BS」下車・乗換→島内路線バスにて「宮浦港」下車・乗換→島内路線バスにて「ところミュージアム」下車→徒歩約3分

四国【松山市・今治市】側から

JR／バス：松山駅（JR）または松山市駅（バス）→今治駅（JR）→特急（または急行）バスにて「宮浦港」（または「宮浦農協」）下車・乗換→島内路線バスにて「ところミュージアム」下車→徒歩約3分

船舶：今治港→快速船（またはフェリー）にて宗方港→島内路線バスにて「ところミュージアム」下車→徒歩約3分

